令和元年度　教員地域貢献活動支援事業（協働型）　成果報告書

課題名	一人暮らし高齢者の社会的孤立等予防にむけた仕組みの開発と評価	
研究者	代表教員氏名	医学部看護学科　教授　田髙　悦子
	事業ユニットの構成（代表者除く）	医学部看護学科　准教授　有本　梓 医学部看護学科　助教　　伊藤　絵梨子 医学部看護学科　助教　　白谷佳　恵 国際教養学部　准教授　中西　正彦 国際教養学部　准教授　三輪　律江
提案者	社会福祉法人若竹大寿会　横浜市富岡東地域ケアプラザ	

課題

提案者（横浜市富岡東ケアプラザ）が所管する横浜市金沢区シーサイドタウン地区は、市のニュータウン計画事業により、臨海部の埋立て地に建てられた集合住宅からなる地区（H27年人口：約21,600人；世帯数：9,600世帯）である。平成27年時点の65 歳以上の人口割合（高齢化率）は、30.7%で市・区平均（22.8%）を大きく回り、また高齢者のいる世帯の割合は44.0%で同平均（40.0%）を上回っている。住民の約97%は集合住宅に住んでおり、うち3～5 階建の住宅は約51%を占め、6 階建以上の住宅は45%を占めている。現在、概ね築40 年になる集合住宅の多くはエレベーターの設置がないか、あっても各階には止まらないなど、高齢者の外出を困難にしている。外出頻度が週1回以下で一日のほとんどを自宅内で過ごす生活像を学術上「閉じこもり」と呼ぶが、高齢者の「閉じこもり」は性、年齢、疾患等を調整してなお、歩行機能や認知機能の低下を促し、また身体・心理・社会的健康を低下させ、さらには社会的孤立や認知症の発生リスクを高めることが知られている。わけても一人暮らし高齢者では、他の世帯の高齢者より社会的孤立等のリスクが高く、予防ならびに解決のための地域を基盤とした仕組みづくりは焦眉の課題である。

課題の解決方法

一人暮らし高齢者の社会的孤立等予防にむけた仕組み（地域における集いの場における立ち寄りコミュニケーションプログラム「ふらっとスペースなみき」および同プログラムを運用する地域ケアシステム（人材育成を含む））を開発し、当該地域に実装（事業化）のうえ、課題解決を図る。

研究実績報告・得られた効果・今後の展開

別添資料「一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組みの開発 事業報告書」を参照

連携機関（提案者以外）	(株)シーサイド開発，　横浜市金沢区シーサイドタウン連合町内会，　同民生委員，　同地区社協，　同住民団体（ロバの会），　区福祉保健センター高齢障害支援課

研究発表（投稿準備中、投稿中、発表予定を含む）

別添資料「一人暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の社会的孤立予防にむけた仕組みの開発 事業報告書」付録5～7を参照

知的財産権の名称	発明者名	権利者名	知的財産権の種類、番号	出願年月日（和暦）	取得年月日（和暦）
該当なし					